

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

学校教育目標	本年度の重点課題
<p>徳島県学校教育目標</p> <p>とくしまの教育力を結集し、未来を創造する、たくましい人づくり ～県民とともに考え、ともに育むオンリーワン教育の実現～</p> <p>本校の教育目標</p> <p>児童生徒一人ひとりの個性と人権を尊重し、社会参加と自立に向けて、自己実現に努める心豊かな児童生徒を育成する。</p> <p>めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○たくましい心や体をめざして学習する児童生徒 ○自分の思いを自分で伝える児童生徒 ○いろいろなことにチャレンジする児童生徒 <p>本校の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の命と人権を守り、安心して学べる安全な教育環境づくり ○教師の専門的な知識を高める校内研修の充実 ○キャリア教育の視点に立った小・中・高一貫した授業を通じた進路指導の推進 ○自立活動の指導内容や方法の充実 ○家庭・地域と連携し、信頼される学校、開かれた学校づくりの推進 ○地域のセンター的役割として、地域や小・中・高からの相談体制の充実 ○学校公開やホームページを積極的に活用した地域への情報発信 ○学校間交流や居住地交流、地域との交流の充実 ○新学校版環境 ISO の活動を中心にユネスコスクールとして持続可能な開発のための教育の推進 ○スポーツ・文化芸術活動の取組の推進 	<p>重点課題 I</p> <p>専門性・資質・授業力の向上</p> <p>○児童生徒一人ひとりのコミュニケーション力の向上をめざした授業の充実</p> <p>(具体的内容の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・的確な実態把握に基づいた個別の指導計画を作成する力を高める。 ・キャリア教育支援プログラムを活用した授業を実践する。 ・ICTを活用した授業教材の工夫、外部専門家を活用した授業を実践する。 ・教員の「協働」によりチームとして授業を実践する。 ・校内体制の改善・構築を図る。 <p>重点課題 II</p> <p>安心・安全な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康・安全教育の徹底 <p>(具体的内容の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災・防犯体制の整備を推進する。 ・児童生徒の実態に即した緊急時対応の体制を整備する。 ・安全な給食指導・食事に関する指導の充実を図る。 ・児童生徒の実態に即した学校行事・校外学習等の改善・構築を図る。 ・児童生徒への合理的配慮の視点に立った教室環境、施設設備、校内外の教育環境の充実を図る。 <p>重点課題 III</p> <p>特色ある教育活動の構築と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボッチャ競技の積極的推進 <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動場面で導入し、競技の理解、技術力の育成を図る。 <p>○環境教育の取組の推進 (ユネスコスクール活動の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコ活動の取組の拡大をめざして地域への発信

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

		自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
小学部	<p>①的確な実態把握に努め、教育実践をする。</p> <p>②修学旅行を安心・安全に計画し、実施する。</p> <p>③児童の実態に応じた教育活動を工夫し、家庭や地域につなげる。</p>	<p>①教員の80%以上(昨年度75%達成)が、個別の指導計画において、一人ひとりに応じた各学期目標の設定が「できた」「ほぼできた」と回答する。</p> <p>②-1 24時間支援表や緊急時対応マニュアルを作成する。 ②-2 教員、保護者の80%以上が、「安全な実施にむけて準備(共通理解等を含む)ができた」「ほぼできた」と回答する。</p> <p>③学級や学習グループで実施している学習を交流及び共同学習や家庭、地域に発信する。</p>	<p>①-1 各学習グループでの事例研究を通して、児童の行動を観察したり理解し、目標の設定につなげる。 ①-2 年2回の短期目標ケース会を学習グループで実施し、実態に基づいた目標設定ができているかどうか検討する。 ①-3 年度末に教員アンケートを実施する。</p> <p>②-1-1 参加児童について、医療的ケアを含めた24時間の配慮事項を表にして、引率教員間で共通理解を図る。 ②-1-2 宿泊先や見学先の地域の消防署や総合病院に連絡をとり、緊急時対応マニュアルを作成、保護者、引率教員間で共通理解を図る。必要に応じて個別の緊急対応マニュアルを作成する。 ②-2 教員と保護者に事後アンケートを実施する。</p> <p>③-1 児童の実態に応じてボッチャ競技を体験し、交流及び共同学習や参観日等で取り組む。 ③-2 児童の実態にあたりサイクル活動を工夫し、授業で学習したことを文化祭等を通じて発信する。</p>			

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

		自 己 評 価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
中 学 部	①的確な実態把握に基づいた個別の指導計画を設定し、指導を実践する。	①教員の70%以上が、個別の指導計画の目標設定や評価について、「妥当性を高めることができた」と回答する。	①-1 各生徒について年間3回のケース会を個別の指導計画立案時に設け、生徒の実態、指導・支援方法について情報交換や検討を行う。 ①-2 学部会で毎回生徒の状況報告を行い教員間で共通理解を図る。 ①-3 Ⅲ,Ⅳ類型生徒については、個別の指導計画の立案時にアセスメントチェックリスト(福山支援学校版)を活用する。 ①-4 ICT機器の活用や医療的ケア等の知識について、学習指導上で知りたいことをアンケートし、その結果に基づき学部会を利用して15分程度のミニ研修会を月1回設け、専門性を高める。 ①-5 年度末に教員アンケートを実施する。			
	②特別支援教育学会研究大会の分科会における発表内容の充実に向けて取り組む。	②事後のアンケートにおいて参加者の70%以上から、「今後の指導の参考になった。」等、肯定的評価がある。	②-1 学部会等で、一人一役を担い、実践報告や授業等で活用しているICT機器の紹介について役割分担を行い、計画的に実施できるようにする。 ②-2 事後にアンケートを実施する。			

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

		自 己 評 価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
高 等 部	①的確な実態把握に基づいた個別の指導計画の目標を設定し、指導を実践する。	①教員の85%(昨年度80%達成)以上が、個別の指導計画の目標設定や評価について、「妥当性を高めることができた」と回答する。	①-1 各生徒の実態を確認するため、今まで活用してきた標準検査を再チェックし個別の指導計画の目標を設定する。 ①-2 2・3学期の個別の指導計画のケース会議を実施する際に、なぜその目標にしたのかの妥当性、根拠を明らかにするため標準検査も提示する。 ①-3 2グループ毎に対象生徒の事例研究を実施し、外部専門家のコンサルテーションを受ける。 ①-4 年度末に教員アンケートを実施する。			
	② 高等部の進路指導の充実を図る。	②教員の85%以上が「今後の進路指導に役立てることができ」と回答する。	②-1 進路・支援課と協力し、「福祉のしおり」等を参考に制度的なものをまとめる。 ②-2 進路決定までの流れの説明資料を作成する。 ②-3 部会等を利用して、研修を行う。 ②-4 年度末に教員アンケートを実施する。			

平成30年度学校評価総括評価表

		自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
企画総務課	①外部専門家を活用した児童生徒のコミュニケーション力育成の指導力を高めるために、校内研究を推進する。	①「校内研究を推進する上で、今年度の企画総務課の取組が役立った」と80%以上の教員が回答する。	<p>①-1 共通理解を図りながら事例研究に取り組めるように、年度始めに、全体研修を2回実施する。</p> <p>①-2 年度始めに、グループリーダーに推進役としての役割を説明する。グループ会終了後に、グループリーダーに毎回アンケートを取って課題を把握し、改善策を共に考えながら、グループ会の活性化を支援する。</p> <p>①-3 外部専門家によるコンサルテーションを企画し、効果的に実施できるように事前資料のまとめ方を示したり、話し合い時の進行を担ったりする。</p> <p>①-4 事例研究の成果を共有できるように2月に報告会を実施する。1事例の発表時間等を確保するために、小学部と中・高等部に分かれて実施し、質疑応答等も取り入れる。</p> <p>①-4 年度末に教員アンケートを実施する。</p>			
	②校内研究の推進を通して、研究体制の在り方や課の担う役割について再考し、次年度の研究体制の構築を図る。	②次年度の校内研究の概要について、「研究のねらいや方法が妥当である」と80%以上の教員が回答する。	<p>②-1 2学期以降、担当者で5回以上話し合ったり、校内研究に関するアンケートを全教員に実施したりしながら、次年度の校内研究の概要を作成する。</p> <p>②-2 校務運営委員会などの意見を基に作成した案を再考する。</p>			

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

		自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
教務課	①新学習指導要領の移行期間中における外国語活動の学習内容等を検討する。	①小学部5・6年生の実態に応じた年間指導計画を作成する。	①-1 今年度の年間指導計画を基に、9月までに英語担当教員と担任、教務課で3回以上話し合いを行い、児童の実態に応じた指導を検討する。 ①-2 2学期に作成した指導計画に沿って実践する。 ①-3 3学期に児童の実態に応じた内容であったか検討会をもつ。 ①-4 次年度の年間指導計画(案)を立てる。			
	②指導要録の電子化に向けて、校内の業務手続きの簡略化を検討する。	②指導要録の電子化に向けて、県主催のワーキンググループで各校の意見を持ち寄り原案を作成する。	②-1 指導要録の電子化に向けて、課内で簡略化、利便性について意見をまとめる。 ②-2 学校の意見を持って、ワーキンググループにて検討する。			

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

		自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
進路・支援課	<p>①教育と福祉の一層の連携等の推進を図るために進路や福祉制度に関する情報を提供し、本校の進路指導の充実を図る。</p> <p>①-1 教員の80%以上が「知識が深まった」と回答する。</p> <p>①-2 保護者の80%以上が「満足・やや満足」と回答する。</p>	<p>①-1 学校の行事等に参加の難しい保護者に教員が説明できるように、福祉制度や本校高等部生徒の進路についての職員研修会を2学期に1回計画・実施し、本校教員の進路に関する知識の向上を図る。</p> <p>①-2 職員研修会后、アンケートを実施する。</p> <p>①-2-1 前年度のアンケートを参考に、保護者施設見学を企画・実施する。</p> <p>①-2-2 福祉サービスや放課後デイサービスに関する情報について進路・支援通信を年に3回発行する。</p> <p>①-2-3 年度末に保護者アンケートを実施する。</p>				

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

		自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
人権教育課	①「ひのみね人権の日」の充実を図ることを通して、人権尊重の精神の啓発と人権意識の高揚を図る。	①教員の80%以上が「活動が充実した」と回答する。	①-1 あいさつ運動の周知を徹底し、児童生徒が自由に参加できる体制をとる。年間100人以上参加する。 ①-2 人権放送の充実を図るため、マニュアル等の整備、記録資料や放送内容の紹介を行う。 ①-3 活動内容等を含めた啓発資料を作成し、配布する。 ①-4 年度末に教員アンケートを実施する。			
	②いじめ等諸問題について早期対応の体制を構築し、児童生徒が安心して学べる教育環境を整える。	②関係機関との連携を含めた「重大事態への対応マニュアル」を改訂する。	②-1 徳島赤十字ひのみね総合療育センター担当者等と連携し、対応マニュアルについて検討する。 ②-2 アンケートを実施し、問題があれば速やかに対処する。			

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

		自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
特別活動課	①学校行事の充実・活性化を図る。	①教員の70%以上が「外部専門家を活用した事業の内容が適当であった」と回答する。	①-1 芸術家派遣事業やNPOの出前授業等の外部専門家を活用した事業を年間2回以上実施する。 ①-2 年度末にアンケート調査を実施する。			
		②教員の80%以上がボッチャ競技について「理解が深まった」と回答する。	②-1 パラリンピックの公式競技であるボッチャへの理解を深めるため、ボッチャ講習会等を年間5回実施する。 ②-2 交流及び共同学習時や参観授業等でのボッチャ競技会を開催する。 ②-3 教員アンケートを実施する。			
	②安心・安全な学校行事の実施を図る。	②教員の100%が学校祭開催時の緊急時対応方法について「理解できた」と回答する。	②-1 参加者に防犯リストバンドを配布し不審者対応の徹底を図る。 ②-2 災害発生時などの緊急時対応を含めたパンフレット作成や緊急時避難経路を徹底する。 ②-3 教員アンケートを実施する。			

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

		自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
保健厚生課	①安全な給食指導・食事に関する指導において、緊急対応の体制の充実を図る。	①教員の80%以上が「緊急対応の体制の充実が図れた」と回答する。	<p>①-1 給食時や授業中の飲食指導時の配慮事項について、全学部の児童生徒の情報を共有し、共通理解を図るために活用できるようにする。</p> <p>①-2 給食時の各教室毎に、緊急時の対応を話し合い、経口摂取や経管栄養の児童生徒の誤嚥等による事故防止に向け、全教職員で年間2回以上緊急対応訓練を実施する。</p> <p>①-3 年度当初の保護者懇談等で、アレルギーの有無の確認を行い、アレルギー実態表や対応マニュアルを基に、全学部の児童生徒の情報を共有し、安全な給食指導・食事に関する指導を行えるよう、教職員で共通理解を図る。</p> <p>①-4 年度末に教員アンケートを実施する。</p>			

平成30年度学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価				学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	
	評価指標	目標達成のための活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	総合評価(評定)		
情報・防災課	①防災対策の校内体制を整備し、防災意識の向上を図る。	①教員の80%以上が避難訓練において「適切に行動できた」と回答する。	①-1 火災避難、地震・津波避難についてのアクションカードを作成し周知する。 ①-2 避難訓練後のアンケート結果を集約するとともに全職員へ公開し次回の訓練に反映させる。			
	②ICT機器の積極的な活用を推進し、授業改善を図る。	②教員の85%以上が「ICT機器を活用した」と回答する。	②-1 タブレット端末のアクセシビリティや授業等で活用できるアプリケーションの紹介・活用方法についての研修会(長期休業中)を計画・実施する。 ②-2 ICTを活用するための研修会(教員対象)を年間5回以上実施する。			

